



アロのスポーツ選手に必要な力を 生活の中で身につけよう！

子どもたちの“共通理解”と“個性”

あるコーチと話をしていたとき、そのコーチが次のようなことを言っていました。「日本人は“意見の食い違いを人格否定につなげる”傾向があると感じことがある」。海外生活の経験をお持ちの方ならお分かりいただけるかもしれません、日本人は意見を闘わせるのが苦手です。海外では、ひとつ問題に対してみんな意見を交わすのは普通のことです。また、その意見が一致しないのは当然とも言えるでしょう。なぜなら、人はみなそれぞれに異なった感覚や価値観を持っているからです。意見が一致することのほうが稀と言っても過言ではありません。

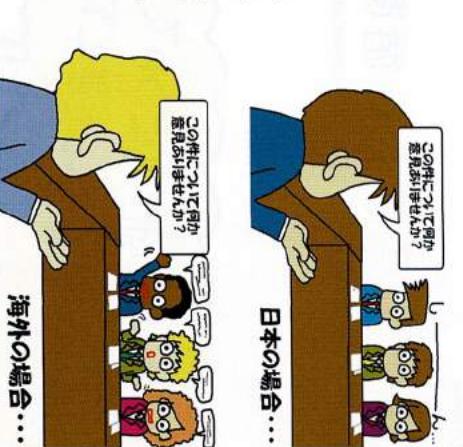
這い上がるよりも、蹴落としたほうが楽！？

スポーツの世界でも指導者の“一人ひとり”が強烈な個性を持つていることが多くあります。当然、意見などまとまらないことがほとんどです。自分の現役時代の経験、慕ってきたコーチの影響、ポジション特性などによって、独自の“哲学”があります。しかし、残念ながら意見の食い違いを人格否定につなげてしまう人がいます。特に、日本では公衆の面前ではほとんど意見を言わないけれど、影で噂をすることが良くあります。

子どもたちの中で、チームについて話し合いを持ったとしても、中途半端な意見交換で終わってしまうと「あいつ、あんなこと言ってたぜ、最低だな」「頭おかしいんじやねえか」と、後になって後ろ指を指されることもあるのです。特に、育成年代の子どもは自分の成長が第一です。這い上がるためには、他者と共存するよりも、蹴り落としたほうが楽で安心だという気持ちが働くのです。

安易な話し合いは、かえって亀裂を作ってしまうかも…

ですから、まずは適当な意見交換で済ませずに、徹底的に議論することが必要です。そして、その意見に至った理由や経緯についても耳を傾けましょう。時には「何度理由を聞いても納得できない」という部分も出てくることでしょう。しかし、私はそれでいいと思います。



日本人は意見交換をする機会がとっても少ない！

徹底的な議論のうえで意見が一致してきた部分については「個性」と捉えてはいかがでしょうか。「誰とも意見が一致しない」「同じ考えではない」ということはある意味で大変貴重なことだからです。「共通理解」と「個性」、議論の末に得られるものは、どちらも大切なものだということに気づくのが大切ですかね。

自己肯定が否定的な循環を断ち切る！



この研究は早期に行われた自己肯定の練習が、長期にわたって影響を及ぼし、否定的思考に囚われ続けるのを回避することを明らかにしたもので、子ども達の動機づけの一端を担っていると考えられます。少し難しい言葉でいうと最初の心理学的状態と成績が後の結果を決定していることから、早期に自己肯定の介入を行うことで、循環する否定的思考を断ち切り、長期にわたりより肯定的な結果を促進することができると言えます。



この研究は早期に行われた自己肯定の練習が、長期にわたって影響を及ぼし、否定的思考に囚われ続けるのを回避することを明らかにしたもので、子ども達の動機づけの一端を担っていると考えられます。少し難しい言葉でいうと最初の心理学的状態と成績が後の結果を決定していることから、早期に自己肯定の介入を行うことで、循環する否定的思考を断ち切り、長期にわたりより肯定的な結果を促進することができると言えます。



運動 療育 こどもアートスクール

お問い合わせはこちらから→TEL:0120-970-421

「参加を希望する教室の住所または
地域をオペレーターに申し添えてください。」